

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所 チャイルドハウスひなたぼっこ		
○保護者評価実施期間	2026年 12月 20日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名(32家族)	(回答者数) 31名
○従業者評価実施期間	2026年1月 15日		～ 2026年 2月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者(障がい児)とその保護者との信頼関係	個々のご利用者(子ども)立場に立って考え、不穏時は本人の納得できるまで話し合いをし、感情をぶつかけたり、八つ当たりをしたりしても大丈夫、ここはそれをしてもいい場所であるという安心できる場であることを知らせる。保護者とは、できるだけ子どもの状況を関わった職員から伝え、保護者との信頼関係を築く努力をしている。	発達障がいの特性や行動理解など、職員が研修を重ねスキルアップを図りながら、個々の発達の特徴が違うことへしっかりと向き合い、一人ひとりに上手に関わりながら、これまで以上の信頼関係を築いていきたいと考えている。
2	放課後等デイサービスの活動だけでなく、親子活動や保護者活動など、子どもだけでなく保護者(特に父親)を巻き込むイベントの企画	年間計画に2～3回の親子(家族含む)参加の活動企画を組み入れている。放課後等デイサービスの日を利用すると定員に限られるので、親子での参加は利用とせず、ひなたぼっこの親睦行事として、より多くの参加ができる形で行っている。保護者同士も親子活動の中でしっかり親睦が深まり、年々楽しみに待たれる参加者が増えている。	今までは土曜日に行っていたので、長期休業中の平日などにも保護者の意見を取り入れながら、多くの人とのコミュニケーションが取れる場をもっと企画していきたいと思っている。
3	個別活動や小集団活動の充実	平日活動については、短時間でできる学習や集中力を高めるための教材・教具を使っての創作活動などを取り入れ、個別活動を充実している。長期休業中は、1日の活動を充実させるため、事前に様々な企画を提案、実施に向けての計画を立て、音楽やダンス、創作活動、外活動などコミュニケーションや成功体験できる活動を多く取り入れている。	4月より2つの事業所(上下の建物)でスタートするため、それぞれの特色ある事業活動ができるよう目指したいと思っている。近くに公園や子ども達が思いっきり外活動ができる場がないため、体育室(ボルタリング含む)を設置したので支援の活動で大いに有効利用していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	立地条件(周囲が住宅・アパート・高齢者が多い)が原因で障がい者支援への理解がなかなか得られず、思いっきり外活動ができない	事業所の駐車場で車を移動しての簡単な外活動はできるが、子ども達の特性で声の音量の調整が難しいため、外活動を躊躇し、室内活動を優先してしまう。	現在、新築を計画中の建物に体育室的(ボルダリングなど軽度の運動ができる)スペースを入れ、少しは身体を動かせる活動を組み入れていくことができるようにしたい。
2	職員全員が利用者全員のモニタリングや情報共有をする事	常勤職員が少ない事と、非常勤職員が、勤務時間(週1～4)の差があるため、曜日によってご利用者の偏りがあったり、実際に関りがほとんどなかったり、申し送りノートや月1回のミーティングだけでは、モニタリング会議や情報共有の話し合いが難しいことがある。	勤務時間を見直し、出来る限り支援の前後の打ち合わせや、今毎月行っている1回のミーティングに社内研修(個々のモニタリング会議等)の時間も確保し、情報共有できる時間を取り入れていきたい。
3	送迎車両の不足	市内の公立小中学校は、曜日によっては下校時刻が重なり、5、6校のお迎えに同時刻になるようになるため、現在2台は職員が自転車を出しての送迎を行っている。長期休業中の外出も軽自動車が連なって行くため効率が悪い。	2つの事業所となり、ますます送迎車が足りなくなるので、長期休業中のお出かけにも必要となる車を検討中である。